

4 専門・関係機関及び団体等における読書活動の事例

<専門機関の取組>

- ②④日本語と外国語による絵本の読み聞かせ
《県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）》 P40
- ②⑤読書手帳で外国にルーツのある子どもも、読書のモチベーションアップ
《県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）》 P41

<企業等の取組>

- ②⑥先生向けビブリオバトルのワークショップの開催
《株式会社有隣堂（横浜市山内図書館）》 P42
- ②⑦中学生向け読書の秘訣カード「Life with Reading」のワークショップの開催
《株式会社有隣堂（横浜市山内図書館）》 P43

<大学等の取組>

- ②⑧読プロが行う小学生への朗読会《フェリス女学院大学附属図書館》 P44

【コラム】

- 真鶴町図書館夏まつり～図書館・博物館の連携～
《真鶴町社会教育委員会議》 P45
- 障がいのある子どもへの読書支援《神奈川県ライトセンター》 P46
- 読む人も楽しむ「読み聞かせ」～子ども会読み聞かせキャラバン～
《神奈川県子ども会連合会》 P48



②日本語と外国語による絵本の読み聞かせ

1 活動の概要

「世界一周多言語読み聞かせの旅」というタイトルで、2015年(平成27年)より第3日曜日の午後に実施している(30分間)。様々な国の出身者や外国ルーツの方をゲストとして招いて、外国語と日本語による絵本の読み聞かせと文化紹介を行っている。

日本の子どもたちが外国語の響きや文化にふれたり、外国につながる子どもたちが母語にふれたりする機会を提供することを目的としている。

2 活動の状況、実際

【イベントの準備】

- ・外国にルーツのある方(あーすぷらざ職員や利用者)に出演交渉を実施。

【イベント開催に向けた工夫】

- ・当館の図書を通して文化紹介を行う。
- ・必要に応じてゲストの国の理解の手助けになるような小物や写真などを使用する。
- ・小さなお子さんでも楽しめる、楽しくて分かりやすい解説を心がけている。

【イベントの内容】

- ・同じ絵本を二か国語で読み聞かせ
(見開きページを各言語で交互に)
- ・ゲストの国の文化、子どもの遊びや歌などの紹介



3 今後の取組、目標

一つのおはなし(小さな子どもでもわかる平易な内容で、二言語で読んで15分以内で読み終わられるもの)を日本語と外国語で読むための図書を準備しなくてはならず、当館の所蔵では間に合わずに他館から借りることもしばしばあり、二言語読み聞かせをハードルの高いものになっている。

また、国によっては、あまり図書が日本語訳されていない場合もあり、結果的に紹介できる国が偏ってしまう現状がある。

今後は、より柔軟に、図書を通じてこれまで扱っていない様々な国を紹介できるようなイベントも実施できないか模索している。

4 参加者、指導者のコメント

【指導者】

子どもと保護者だけでなく大人の方も参加されており、イベント終了後もゲストとの交流を楽しんでいる方が多い。ゲストの方は、子どもとふれあえて楽しかったと一言でくださることが多く、自国の絵本や言葉、文化を紹介することにやりがいを感じていただいている。

②読書手帳で外国にルーツのある子どもも、読書のモチベーションアップ

1 活動の概要

秋の読書週間に合わせ、「手帳に読書の思い出を記録しよう」というタイトルで昨年度より実施している。希望者に読書手帳を渡し、読んだ本のタイトル・感想等を書いてもらう。3冊読むごとにカウンターにお持ちいただき、司書はスタンプ押印と景品（ブックカバー等）を差し上げ、手帳を全ページ（15冊分）書き終えたら、司書は手帳最終ページの賞状に日付を書き入れ、記念として渡している。

2 活動の状況、実際

日本の大人の方の参加を想定していたが、当館で行われている地域日本語教室に通う外国ルーツの子どもたちにも参加するように声を掛けてみたところ、彼らの支援者も一緒になって楽しんで手帳への記録に取り組んでいただけた。

【読書手帳のよさ】

- ・読書手帳の設計自体がスモールステップで、モチベーションが維持しやすい。
- ・特に、日本語を読む力が不十分な外国ルーツの子どもに成功体験を積ませることができた。



配付した読書手帳

3 今後の取組、目標

今年度以降も、日本の方のみならず、当館に来られる外国にルーツのある子どもや大人の方にも積極的に配付していきたい。外国にルーツのある方の支援というと、対象を区切ったものを用意しがちだが、図書館として「どんなひとにも」使えるツールとしてブラッシュアップさせていきたい。

また、たくさんの大人がかかわることも重要なポイントだと感じたので、みんなで本を読むイベント型の事業にも展開できたらと考えている。

4 参加者、指導者のコメント

【地域日本語教室の支援者】

子どもにとっては3冊読むたびにカウンターへ手帳を持っていくと、司書（いつも日本語を教えている支援者以外の第三の大人）が、褒めてくれるのがとても嬉しかったようだ。本を読む気がなかなか起こらなかった子どもも、たくさん本を読んでもくれた。



②先生向けビブリオバトルのワークショップの開催

1 活動の概要

図書館司書が学校図書館研究会に招かれ、横浜市青葉区内の小学校でビブリオバトルの運営方法について講義し、先生方に向けたビブリオバトルのワークショップを行った。ビブリオバトルの楽しさを体験してもらうと同時にビブリオバトルの目的でもある「本を通して人を知る」「人を通して本を知る」を実感している。

2 活動の状況、実際

先生方の持ち物：「わたしの好きな子どもの本」をテーマに
選んだ本

【開催内容】

○ワークショップ型で実施。

- ① 「ビブリオバトル」について司書が説明。
- ② 31人の先生が6グループに分かれて、ビブリオバトルを実施。（今回は1人3分間で持参した本を発表してもらい、1分間のディスカッションタイムを設けてグループごとにチャンプ本を決定。）
- ③ グループチャンプ本の紹介を全員の前で実施。

【考察】

今回の研修を通して参加した先生方は、本を通して話が弾み、ビブリオバトルの楽しさを実感していたのではないと思う。

また、国語科だけでなく、他の教科や新入学やクラスがえ時の友達づくりのきっかけにもなるという意見も出るなど、活発な意見交換が行われた。



3 今後の取組、目標

今後も小・中学校の先生向けに、ビブリオバトルの講座等を実施していきたい。授業等にビブリオバトルを取り入れてもらうことにより、子どもたちに多くの本にふれてもらい、知見を広めるきっかけづくりに努めていきたい。

4 参加者、指導者のコメント

【参加者】

思ったより難しいものではなく、楽しかった。

【担当者】

来年の研究会でも行ってほしい。



⇒ やってみよう1(P50)

②中学生向け読書の秘訣カード「Life with Reading」のワークショップの開催

1 活動の概要

山内図書館では中高生、ティーンズ向けの講座として読書の秘訣「Life with Reading」のカードを使ってワークショップを開催した。3つのカテゴリーに分けられた27枚のカードを使用する。カードの色はカテゴリー別となっており、ピンクが「読書の楽しみ方」、緑が「読書のコツ」、そして水色が「創造的読書」と、それぞれの色のカードに読書の体験やコツ、楽しさを伝えることができる言葉が書かれている。参加者はグループに分かれ、このカードを使ってグループ討議を行い、読書の魅力を共有することができた。

2 活動の状況、実際

ワークショップでは、グループに分かれて話し合いを実施。（今回は、水色のカードは抽象的で中学生には難しいと思われたのでピンクと緑のカードに限定。）

【方法】

- ①ピンクと緑のカードを並べ、カードを読み上げることで内容を共有する。
- ②その中から好きなカードを選び、そのカードを読み上げ、選んだ理由や共感した部分などを自由に話す。他の人は話の内容についての質問や感想などを自由に話し合う。

【考察】

話のあとの質問やコメントが活発に行われ、「自分の話に対して、興味をもってくれる、質問を寄せてくれる、共感してくれる」ということが体感できたと思われる。



3 今後の取組、目標

今後も図書館イベントとして、幅広い世代に向け読書の秘訣「Life with Reading」のカードを使ってワークショップを開催し、読書の魅力を共有していきたい。小・中学校にも普及させたいと考えており、学校司書を通して周知していきたい。そのため小・中学生版を作成中である。

4 参加者、指導者のコメント

【参加者】

全員が初めて会う人だったけど、スムーズに話げできた。

【指導者】

本を通してのコミュニケーションツールとしてもおすすめである。



⇒ やってみよう2(P51)

②8読プロが行う小学生への朗読会

1 活動の概要

横浜市泉区にあるフェリス女学院大学附属図書館が取り組んでいる「読書運動プロジェクト（読プロ）」は、学生が主体となり、図書館を拠点として「読書」を個人的な経験だけでなく他者と共有、発信していく活動である。その一つが、声に出して読むことで他者と作品の世界をともに味わう「朗読」だ。読プロの朗読チームが近隣にある緑園東小学校の全校児童に向けて、年一回朗読会を行っている。朗読会を行うことで、子どもたちに読書に親しむことの良さを味わってもらえるよう、日々の練習も重ねている。



2 活動の状況、実際

【朗読レッスン】月2～3回（外部の講師による）

【朗読レッスンのポイント】発声方法の学習、腹式呼吸の練習

【発表の場】小学校だけでなく、大学祭や地域の読書推進イベント、県立神奈川近代文学館で行う朗読会でも披露。

【緑園東小学校での朗読会】

大学生の休業中である9月に行っており、子どもたちが毎年楽しみにしている行事である。また、この朗読会では大学のOGである朗読チーム「すずの音」の朗読もあり、小学生だけでなく、大学生の学びの場ともなっている。



3 今後の取組、目標

子どもたちの感想からは、「毎年楽しみにしています」、「毎年違う本を紹介してくれて嬉しかったです」等、喜んでいる様子が伺える。また、大学生も「もっと子どもたちに伝わるような朗読がしたい」、「来年は先輩たちのようにもっと頑張りたい」等、相乗効果で毎年朗読会が盛り上がっている。今後も練習を重ね、小学生の読書意欲を掻き立てるような朗読会を継続していく。

4 参加者、指導者のコメント

【小学生の感想文より〈抜粋〉】

今日はおもしろい物語を朗読していただきありがとうございました。ぼくは、毎年のようにある朗読会で、いつも本と出会い、本を好きになることができます。これからも、本とのふれあいを大切にしたいです。

【大学生（読プロメンバー）の感想】

発表当日、練習してきたのはいいものの、小学生が朗読を聞いてくれるか、何より心配だった。でも、この会を楽しみにしてくれて、一生懸命にお話を聞いてくれている子どもたちの姿を見て、私の方が感動させられた。

【コラム】

真鶴町図書館夏まつり～図書館・博物館の連携～ (真鶴町社会教育委員会議の取組)

真鶴町社会教育委員会議では、未来を担う子どもたちの図書館利用の促進と町が有する豊かな自然環境の活用を目的に、町の図書館と博物館が連携した「図書館夏まつり」を企画した。町内在住・在学の小学生を対象に1日目は博物館学芸員と、NPO法人職員とで、磯の観察会を実施し、2日目に図書館がある情報センターで観察した磯の生き物の生態や生活場所などを、図書館にある本で調べたり、確認したりしながら、仕掛け絵本を作成し、町の自然や施設を活用した取組を行っている。



1日目は、実際に磯に出て、たくさんの生き物を観たり、ふれたりしながら、生き物の様子を熱心に観察した。

2日目は、さらに実際に見てきた生き物について、図書館職員の人たちが準備してくれた本を見比べたり、調べたりして本を通した生き物の姿を知り、関心を高めている様子があった。さらに、博物館職員と図書館職員が一緒に作成したキットを使って仕掛け絵本を作成することで、生き物の生態や生活場所などについても振り返り、作品を仕上げていた。



参加した子どもたちは、「実際に見た磯の生き物が、本で調べることで、さらに好きな食べ物や住んでいる場所もわかってよかった」「仕掛け絵本をつくる時に、生き物がどんな場所に住んでいるのかがわかった」「友達とも相談して、絵本ができて楽しかった」という感想もあった。



関係した図書館職員は「単なる体験事業で終わらせることなく、思い出したり、調べたりすることで学びを深めることができよかった」と話している。

今後は、図書館、博物館とともに美術館とも連携した取組を企画・検討して町の活性化を図っていく予定である。また、子どもたちにも、町の豊かな自然や資源に関心を高めていけるよう、各施設の連携・協働した取組を考えていきたい。

【コラム】

障がいのある子どもへの読書支援
(神奈川県ライトセンター)

神奈川県ライトセンターとは

神奈川県ライトセンターは、視覚障がい者及び視覚による認識に障がいがある方々（ディスクレシア（読字障がい）を含む）の他に、自分で本をめくって読むことができない肢体不自由の方々のために、全国ネットの「サピエ」を活用した図書の相互貸借や郵送等による貸出サービスを行っている。



また、歩行訓練や視覚障がい者が安全に利用できるスポーツ施設を運営している。

<点字・録音図書などの製作・貸出について>

- 点字・録音（主に CD）・拡大の図書・雑誌などを製作、貸出している。
- 読書に関する相談などに対応している。
- 点訳・音訳・対面朗読などの個別サービスを行っている。

《蔵書数》

分類	タイトル数	巻数
点字図書	20,347	79,473
テープ図書	8,004	92,391
デイジー図書 (一般 CD 含)	5,242	9,476
拡大図書	120	374



点字図書、デイジー図書

～点字・録音図書の借り方～

1. 登録
ライトセンター図書館へ登録する。

2. 申し込み
電話で読みたい点字や録音図書を申し込む。

1日10タイトル。
郵送期間を含め20日間借りられる。
本の照会にも応じている。

4. 返却
借りた点字や録音図書を郵便ポストに投函する。

3. お届け
郵送にて送付される。



<ボランティアの育成について>

- 点字・録音・誘導・拡大写本・在宅者援助・レクリエーション・スポーツ・ITサポート・デジタル編集など視覚障害援助ボランティア養成講座を開催している。
- ボランティアを対象に各種勉強会を開いている。
- 「できることを」「できる範囲で」気軽にできるボランティア活動として「ライトボランティア」の養成を行っている。



活躍されているボランティアの方

<普及啓発について>

- 福祉教室の開催
視覚障がいについての理解を広めるために学校、団体などを対象に行っている。
- 施設見学会の開催
ライトセンター理解のために学校、団体などを対象に行っている。
- 移動ライトセンターの実施
県内各地のイベントや施設に伺い、視覚障がい者の理解やライトセンターの紹介を行っている。



【コラム】

読む人も楽しむ「読み聞かせ」～子ども会読み聞かせキャラバン～
(神奈川県子ども会連合会)

小さい頃からの読書は、文字や言葉を覚えるだけではなく、「考える力」を身に付けられたり、豊かな発想や感性を育てることに役立ったりする。読書を子どもたちにすすめる方法として、読み聞かせは大変有効である。

子ども会では、読み聞かせ活動を促進、普及するために、読み聞かせキャラバンを実施している。

当日は読み聞かせ会と読み聞かせセミナーの2部構成。

【第1部：読み聞かせ会】

プロによるお手本を、子どもたちと一緒に楽しんだ。

読み聞かせだけでなく、紙芝居、絵本、ペープサート（紙人形劇）、うた遊びなども行った。

プロによる読み聞かせに直接触れて、読み聞かせへの関心が高まった。



読み聞かせ会の様子



読み聞かせセミナーの様子

【第2部：読み聞かせセミナー】

いよいよプロの技術を教わる。

すでに読み聞かせに携わっている方、またはこれから始めようとしている方も、導入から読み聞かせそのものまでの実践的な方法を学ぶことができた。

読み聞かせに関する準備や導入、子どもたちとの接し方を含めて学べる内容となっており、参加者自身も楽しみながら読み聞かせの方法や実践的な技術を身に付けることができた。

今年度取り入れたペープサート（紙人形劇）はよく知られているものだが、実際に使ったり作ったりしたことがある人は少なく、好評であった。